

苫小牧東病院

苫小牧市の苫小牧東病院 患者への高度リハビリの
院(橋本洋一理事長・2 提供に向け、最新リハビ
60床)は1989年の リロボットや電気刺激装 実空間上)に仮想CGを
開設以来、地域ニーズに 置を積極的に導入。大学 重ねて表示することで、
応えるべく、急性期・緩 や企業との共同研究など 歩きながら数字を選ぶ、
和ケア・回復期リハ・療 エビデンスに基づいたり 色を掴む、迷路を抜ける
養の6病棟を備え、患者 ハビリを実践している。 など遊び感覚でできるの
の病態に応じた治療を展 開してきた。中でも、回

◆

24年、新たに導入した 左平側空間無視が主症
「Orthobot」は、 状態の患者に探索、注意課
病棟は、2000年に道 膝の屈伸と足の振り出し 題、上肢機能・両手動作
内で最初に開設。以降、 を補助する歩行学習支援 訓練、ADL・IADL
随時機能の拡充等を行っ ロボット。膝の曲げ伸ば しい足の振り出しを補助 識への改善効果を発揮す
ており、現在、リハビリ スタッフは100人を超 える。ゲーム感覚でリハビ
え、脳卒中の急性期治療 の機能改善が目的。6軸 できるもの」に変え、意
後や神経難病など多様な 部の動きを捉え、最適な 欲向上と機能回復に役立
タイミングでアシスト っている。



上肢用のリハビリ支援 ルク(回転力)を加える 仕組み。近隣の医療機関 装置「ReeGo」で 導入実績はなく、膝の は、アーム部分とモニ
で導入実績はなく、膝の は、アーム部分とモニ 屈曲・伸展に合わせたア ターで構成。肩・肘・上
シストで振り出しを改善 肢全体の重さをモーター しい、踵接地を促す歩容再 学習につなげている。
複合現実(MR)技術 せ、前後、左右のほか回 助運動が必要なケースに 用いた訓練システム 旋や円、3次元的な動作 適している。

「リハまる」は、ヘッドで、肩、肘などの可動改 一方、同じ上肢用口

先端機器を積極導入

多様な患者に高度リハビリを提供



MR活用した「リハまる」。ゲーム感覚で訓練できる

反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS)は、頭部 法(ETMS)は、頭部 域連携」にも力を注いで いる。

昨春からは「訪問看護 リハビリステーション和 来る(わくる)」も開設 方法で、軽中度上肢麻痺 療所と協働しながら健康 教室、講話などを積極的 に行っている。今後も、 患者が住み慣れた地域で 自分らしく生活できる バックアップ体制をさら には「近年は超音波画像を に強化するべく、先進的 なリハビリを幅広く提供 していく考えだ。

ボットの「CoCoRo e AR2」は、ある程 度手や腕を動かせる人 随意運動が残っている人 向け。腕の位置や動きを センサーが検知し、患者 の残存機能に合わせた力 を加えアシストする。前 方への挙上、円軌道訓練 など、ADLに直結する 動きの練習が強い。

上肢用リハビリ装置は 両機器とも、脳卒中後の 上肢麻痺・機能障害のり く、脳卒中後の痙縮・拘 硬に基づく経過把握を 波治療機器「フィジオリ ナス療法と併用するこ とで、さらに相乗効果が 期待できるという。

高齡化が進む中、リハ ビリテーション部の脊戸 英臣部長は、「脳卒中後 などのリハビリは、でき るだけ早い段階から体を 動かし始めることが、そ の後の回復や社会復帰に つながる。リハビリ機器 によって効果を実感しや すく、リハビリへのモチベーションアップにもつ ながっていると感じてい る」と強調。発症を未然 に防ぐ、予防リハビリが 重要と捉え「予防」と「地



膝の屈伸と足の振り出しを支援する「Orthobot」